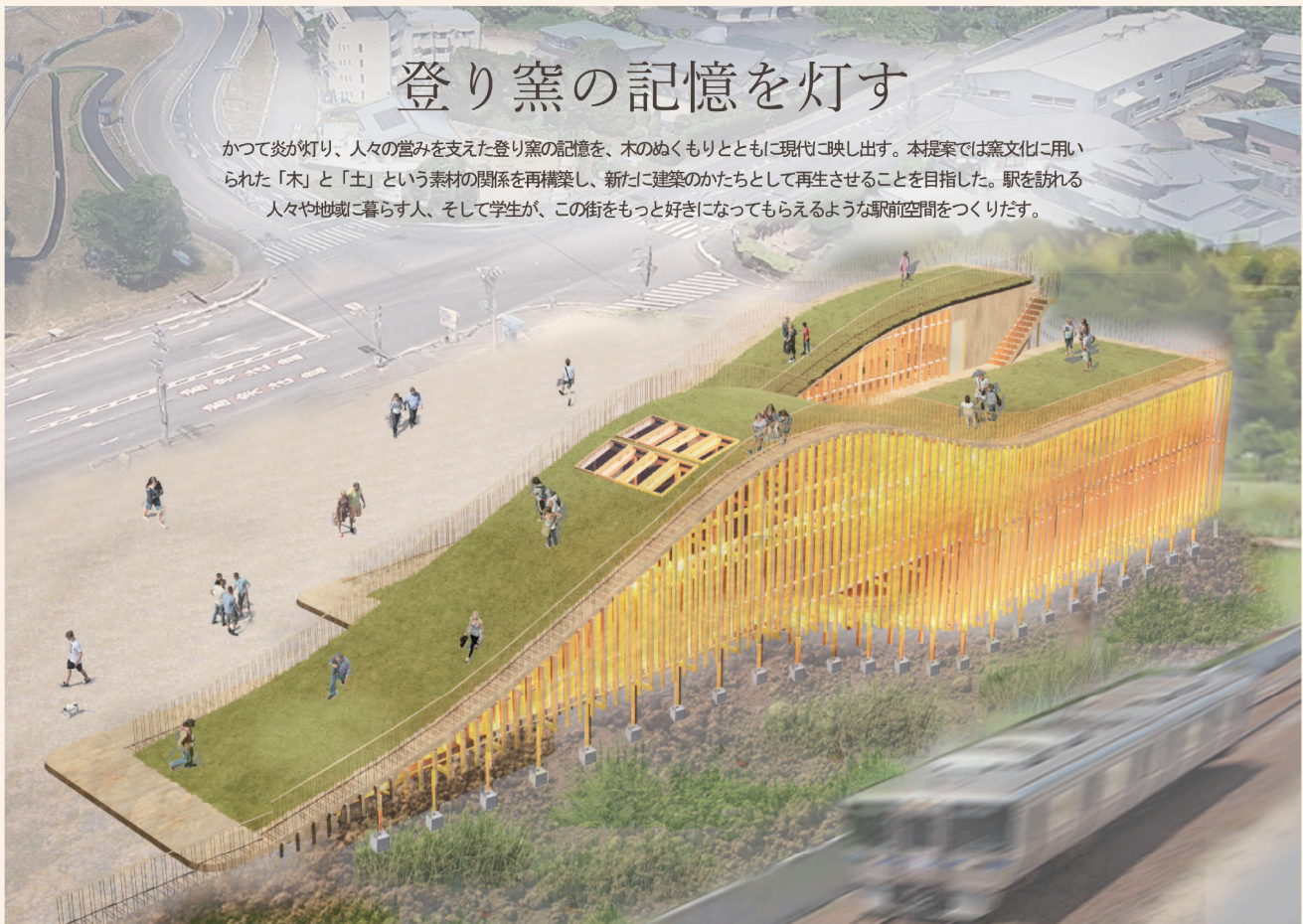


最優秀賞 「登り窯の記憶を灯す」

登り窯の記憶を灯す

かつて炎が灯り、人々の営みを支えた登り窯の記憶を、木のぬくもりとともに現代に映し出す。本提案では窯文化に用いられた「木」と「土」という素材の関係を再構築し、新たに建築のかたちとして再生させることを目指した。駅を訪れる人々や地域に暮らす人、そして学生が、この街をもっと好きになってもらえるような駅前空間をつくりだす。



01 計画敷地 - 愛知県豊田市八草町 -



計画敷地を豊田市八草町とする。この場所は「リニモ八草駅」と「愛知環状鉄道八草駅」が隣接しているが、駅周辺にはほとんど施設がなく、立ち止まるきっかけが乏しいが現状である。また、周辺に大学が立地しており、多くの学生が日常的に通過し、人の往来は多い地域である。

02 歴史的背景 - はげ山となっていた過去 -



明治中期はげ山の様子 昭和中期森林保全の施工の様子 現在の森林の様子
もともとこの地域は、焼き物の産地として知られ、その燃料として木材が大量に使用されたことから「日本三大はげ山」の一つと呼ばれていた。しかし、その後の森林保全活動によって、今では豊かな緑を取り戻しつつある。現在、森林保全の施工時に植えられた木々が成長し、伐採の時期を迎えており、伐採時期を迎えた木材を地域資源として活用し、森林保全と建設計画を両立させることを目指す。

03 敷地的特徴 - 生息する東海丘陵要素植物群 -



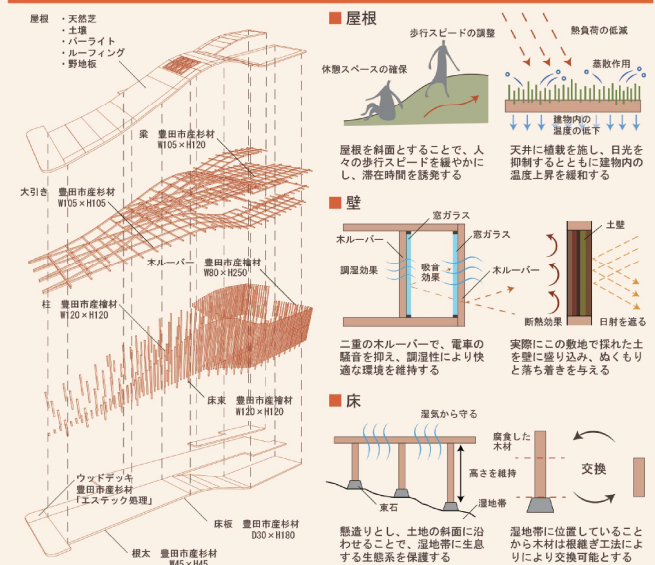
かつてこの地域は約600万年前、東海湖と呼ばれる浅い湖盆が存在したと考えられており、砂礫や粘土が厚く堆積した。これが隆起・侵食し、砂礫層と花崗岩などが分布する地域となった。この砂礫層は保水性が高く栄養分が乏しいという性質を持ち、その敷地的環境特性から東海丘陵要素植物群と呼ばれる多様な植物が生息している。したがって、本敷地は木造建築物と環境との調和が大きく求められる場所である。

04 提案 - 登り窯要素を取り入れた駅前建築物 -



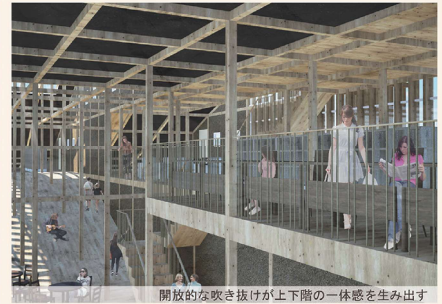
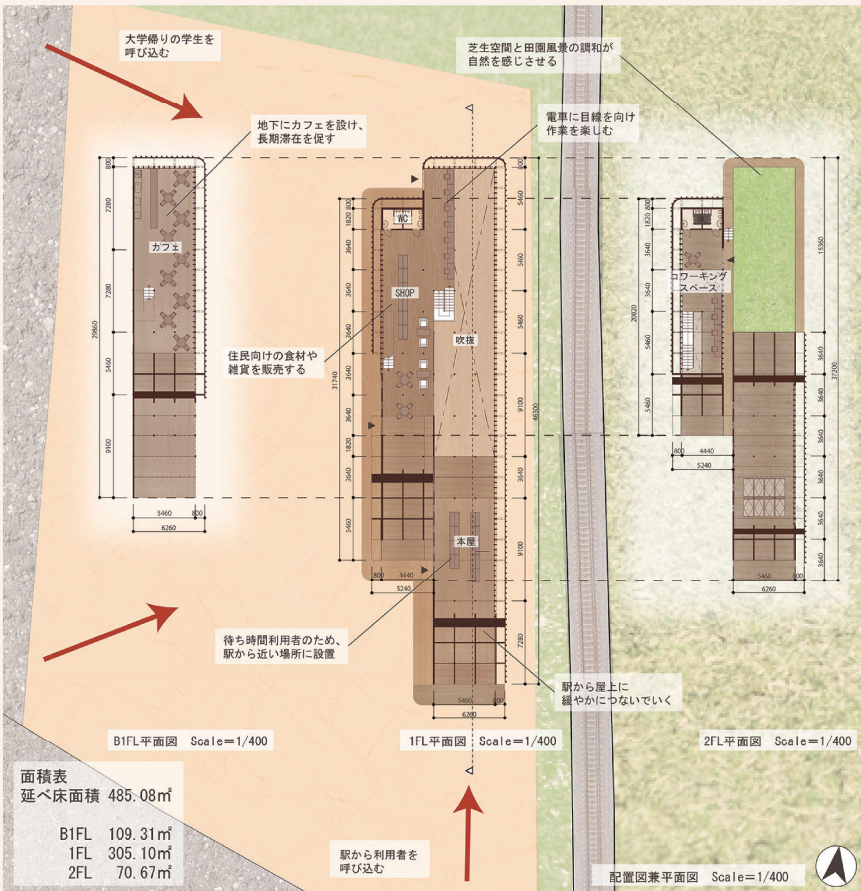
かつて栄えた陶磁器産業で用いられた登り窯のイメージを建築要素として取り入れる。本地域では過去、窯と森林の関係は十分に築かれて来なかったが、かつての窯文化の記憶を感じさせつつ、木材と調和できる空間を創出することを旨とし、大学生や地域住民にこの街を知り、もっと好きになってもらうことを目的とする。

05 建築提案 - 木材の環境的特性を活かした設計手法 -



木材の環境的特性を活かし、建築物を登り窯に見立てつつ、木材と自然環境との調和を意識して設計を行った。屋根・壁・床には木材ならではの吸音性・保水性・調湿性などの機能を取り入れることで、自然環境を守るはらりとともに、木の温かみやぬくもりを体感できる空間を創出することを目的とする。

06 配置図兼平面図 - 駅と建築をつなぐ動線計画と空間構成 -



07 立面構成 - 自然との調和し、人々を招くファサードデザイン -



08 断面構成 - 登り窯の形態を活かしたパッシブデザイン -

